

廃棄物の処理場はどこに？

東京都府中市立府中第六小学校 牛山 聡

1 はじめに

4年生は、市から県へ大きく視野を広げる
ときであり、また初めて地図帳を使って学習
する学年でもある。そこで、地図に関心が高い
この時期に、それを用いた授業はできない
かと考え、次の指導計画を立ててみた。

2 埋立地や清掃工場のごみの写真から

はじめに埋立地や清掃工場のごみピットの
拡大写真を見て気づくこと、思ったことを考
える。

「ごみが多い。」「においがきつそう。」「働
いている人が大変そう。」「ここはどこなの？」
子どもたちは、初めて見る大量のごみの様子
に圧倒されるだろう。

3 埋立地や清掃工場はどこに？

そこで、ここはどこ
かなのか、
このよ
うな清
掃工
場はど
こに
あるか、
地図帳p.
37～38を『楽しく学ぶ小学生の地図帳(初訂版)』p.37-38
開いて調べてみる。すると、「東京や神奈川
には、ごみ処理場がたくさんある！」「東京
湾沿いにいっぱい並んでいるよ。」「府中の近
くにもあるよ。」「都心には1つもないね。」「
どうして東京湾の近くにかたまっているの
かな？」など子どもたちは、地図帳からた
くさんのことを発見するだろう。

地図には、地名だけでなく、主なごみの処
理場や線路、1時間以内で東京駅にいける範

囲まで記されているので、気がつく子はその
辺りのことと関連させて考えを深められると
さらによい。「1時間以内に東京に行ける所
には、人が多く住んでいるから、清掃工場は
つくらないのでは？」「沿岸部をよく見ると
埋め立て地になっている。ここに清掃工場が
多くつくられているのは、もう他に土地がな
いからじゃないかな？」など。

それらの気づきの中から『清掃工場の様子
を調べてみよう』という学習問題が生まれる。

4 清掃工場の様子を調べる

この段階では、実際に清掃工場を見学した
り、教科書、副読本、地図帳、パンフレット
やインターネットで調べたりする。調べる内
容は、ごみの量や種類、処理の方法、働い
ている人の工夫や努力、ごみ処理にかかる費用、
熱の有効利用、昔と今のごみ処理の仕方の違
い、このごみはどこから来るか…など。

この学習計画は、初めにごみの行く末と問
題点を学習し、その元をたどっていくと、実
は普段自分たちが出していたごみにたどりつ
く、というもので、では自分たちにできるこ
とは何だろうということにつながっていく。
つまり、身近なごみを出発点としてその行方
を調べ、遠い所で処理されていることを知る、
という終わり方ではなく、逆の発想で、遠く
の世界の話だと思っていたものが、実はすぐ
身近なものから始まっていた、というように
流す学習計画である。そのことによって、最
後は「自分たちにできることは何だろう？」
という考えに自然に結びつくと思われる。

5 おわりに

今回、地図帳を1つの資料として指導計画
を立てたが、常に地図帳を手元に置き、調べ
たいときに、その場所や関連する事柄を調べ
たりすると、より深い見方、考え方を普段か
ら鍛えることになると思う。これからもさま
ざまな場面で地図を活用し、地図に慣れさせ
ていきたい。